西条中学校研究通信

R８年度
第１号
研究部

R８年度がスタートしました。昨年度は、大妻女子大学の澤井先生にご指導いただき、「選択」と「共有」をキーワードに、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための指導について研究を行ってきました。今年度も澤井先生をお呼びし、昨年度の研究をさらに深める年となります。研究テーマを共有し、互いに実践について語り合いながら、西条中学校全体の授業力を上げていきましょう。チーム西中、本格スタートです！

１．研究主題

「主体的・対話的で深い学び」を実現するための指導の工夫

～「選択」と「共有」を通じて、自らの学びを実感させる振り返り活動の充実を通して～

２．「選択」と「共有」の場面を取り入れる意義

①文部科学省が「令和の日本型学校教育」の柱として掲げている「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図るうえで、「個別最適な学び」を「選択」、「共同的な学び」を「共有」と読み替えてキーワード化することで、教科を超えて、全教職員が共通認識を持って授業改善に取り組みやすくなる。

②「選択」の場面では、生徒が自らの視点で課題に向き合い、「選択」を行うことで、自らが選ぶからこそ自分事となり、主体性が生まれる。

③「共有」の場面では、各自が選択した異なる方法や資料、視点で進めた学びを共有する中で、「意見が分かれたから話し合う」「いろんな視点で調べたから共有する」という対話の必然性が生まれる。そうして、同じ選択をした仲間、または、自分とは違った選択をした仲間の見方・考え方・学び方を知り、それぞれの学びに触れることによって、新しい気づきや理解の深化が促される。特に、この「共有」の場面においては、単に発表をさせることにとどまらず、仲間の考えを知り、その考えに対して、同意をしたり、疑問を持ったりすることを通して自分の考えを再構築していく過程を促していくことで「深い学び」につながっていく。

３．当面の研修予定

４月（本日）：今年度の研究推進の概要について

４月～６月：生徒実態の把握
各教科の育てたい資質・能力の分析
単元づくり、振り返り活動の充実等、各教科で研修を進める。

６月１７日：澤井陽介先生を招いての校内研修
４校時：研究授業
午後、研究協議及び理論研修

＊６月１７日は、部活動は休みとし、全員研修に参加してください。

４．単元づくり・振り返り活動の充実について

⑴ 単元の中に**「選択」と「共有」の場面**を、必ず１回は設定しましょう。その際、その単元において**生徒につけたい力（終末の生徒の姿）を十分に検討・想定**した上で、効果的なタイミングで取り入れるようにしましょう。また、生徒自身が学習の自己調整を図りながら、主体的に学びを深めていくことができるように、生徒に**学習の見通しをもたせるための「選択」**となるような工夫をしてください。今年度、各教室に「選択」と「共有」のカードを用意しますので、適宜活用し、生徒に「今、自分は『選択』しているんだ」とか、「みんなに伝わるように工夫して『共有』しよう」などの意識をしっかり持たせるようにしましょう。

⑵ 「めあて」と「学習課題」について

「めあて」とは、「〇〇について理解する」といった「この１時間の授業で生徒につけたい力」を生徒の立場で示すもの。（指導者の立場で示すものが「ねらい」）

「学習課題」とは、「めあて」の達成に向けて生徒が各教科の見方、考え方を働かせながら追究していく「問い」や「活動」。

全ての教科、授業において「めあて（ねらい）」は準備しておく必要があり、原則、授業の導入部で生徒に提示するものである。しかし、教科の特性により、「めあて」ではなく「学習課題」を提示した方がよい場合がある。その場合は、授業後半に「まとめ」として、例えば「〇〇とは～である」等、生徒に共有化させる必要があります。

⑶ 振り返りについて

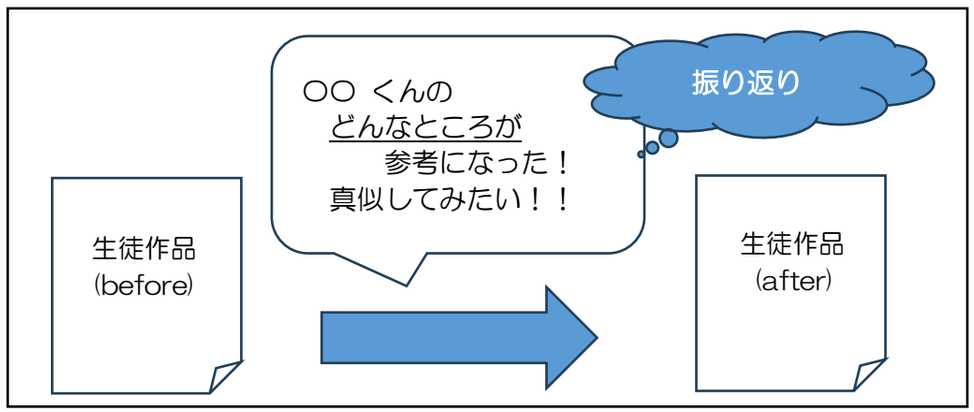
今年度は、**「自らの学びを実感させる振り返り活動」**を充実させていくことが研究の重点となります。その際、その単元において**生徒につけたい力（終末の生徒の姿）を十分に検討・想定**した上で、その力の伸びを見取ることができる振り返り活動の工夫を図ってください。また、「主体的に学習に取り組む態度」を評価するためには、**生徒がどのように自らの学習を調整しようとしているかを見取る**必要があります。そのためには、「〇〇についてよくわかった」等の単なる授業評価ではなく、例えば「誰のどのような学びが自分の学びに参考になったか」などを振り返らせるようにしましょう。

５．お願い

⑴ 生徒の力の伸びを見取るためには、**生徒の学習状況を具体的な数値とともに把握する**必要があります。生徒の実態を把握・分析するために、各種テストの答案はスキャンするなどして取っておくようにしてください。

⑵ 生徒がどのように自らの学習を調整しようとしているかを見取ることができる資料を残してください。

【イメージ図】



⑶お互いの実践から学び合うため、各単元（授業）の振り返りの場面で使用したプリントやタブレット上のデータを交流しましょう。

提出締め切り　６月５日（金）
提出場所　　HIGAPON＞西条中学校＞C01_西条中学校＞02_R08＞10_研究＞振り返りシート＞各教科

【研修講師】澤井陽介先生〈澤井陽介著「できる評価・続けられる評価」（東洋館出版社）より引用

大妻女子大学教授　昭和３５年、東京生まれ。社会人のスタートは民間企業。
その後、昭和５９年から東京都で小学校教諭、平成１２年から都立多摩教育研究所、八王子市教育委員会で指導主事、町田市教育委員会で統括指導主事、教育政策担当副参事、文部科学省教科調査官、文部科学省視学官、国士舘大学教授を経て、令和４年より現職。

〈主な著書〉
『［図解］授業づくりの設計図』（２０２０年）
「教師の学び方」（２０１９年）
「授業の見方」（２０１７年）　　いずれも東洋館出版社、ほか多数。